

☆不安全行動防止対策をやっていますか？

★災害発生の要因は、

「不安全設備」「不安全行動」「管理の欠陥」に大別され、この3つが複合しています。従って、「不安全行動」を防止することは、災害防止にとって重要であるといえます。

★なぜ、不安全行動するのか？その対策は？

1. 危険に対する知識が不足している（知らない）



適切な安全指示と安全教育が有効です。

- ①安全指示⇒ 作業開始前に危険有害要因を明らかにし、その防止対策を指示。
- ②安全教育⇒ 作業手順の教育、新規入場者教育等を安全教育の実施。
- ③KY活動 ⇒ 多くの発言を引き出しグループの知識レベルを向上。

2. 安全作業を行う為の技能が未熟である（できない）



特に危険作業においては、適切な技能を有した作業員の配置が重要です。

- ①適正配置⇒ 未経験者と熟練者のペア、高齢者の適正配置。
- ②有資格者⇒ 技能を有した資格者の配置。

3. 安全への意欲が欠けている（やらない）



職場の全員の意欲向上には、現場全体の雰囲気、結束向上等の動機付けが大きく影響します。

- ①統一ルール⇒ 現場にあるルールは、みんなで守るというモチベーション作り。
- ②KY活動 ⇒ 出された危険から対策を決定し、グループの結束力を向上。
- ③一声掛け⇒ 名前を呼び合い、気軽に話し合える雰囲気作り。

4. 人の特性（ヒューマンエラー）



「うっかり」「ぼんやり」のミスに対して、ミスを防ぐだけでなく、ミスが起きても災害にならない対策が重要です。

- ①多重安全⇒ ミスしても災害が防げる工夫と改善をする。
(例えば、安全ネットの増設や2丁掛安全帯の使用)
- ②安全教育⇒ ミスが起るケースを精査し、ミスの発生を低減する。

◆見逃すな「不安全行動と不安全な状態！」

【一言】不安全行動防止のためには、現場に即した活きた活動が有効と
思われます。今日も心のこもった指導をお願いします。

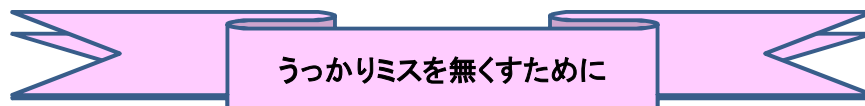
☆ ヒューマンエラーをなくす努力をやっていますか？

★ヒューマンエラーは、何故起きる？

- ① 知識や技能の不足による(知らない)
管理者や作業者が作業標準の内容を知らない、理解していない、技能を持っていないため。
- ② 意図的な不遵守(やらない)
管理者や作業者が作業標準の内容を知っており、技能も有しているが、大丈夫だろうなどの理由で意図的に作業標準を守らなかったため。
- ③ 意図しないエラー(人の特性)
管理者や作業者が必要な知識・技能を有しているが、目の錯覚・聞き間違い・記憶の誤りで予想外の判断をして行動したため。



- ①は、当事者の「適正配置」や今後の「教育」で回避できる。
- ②は、「悪いと知っていてやった」ことで、「プロとして絶対に起こしてはならない過ち」です。
- ③は、「うっかりミス」とも言い、誰にでも起こりうるもので、災害の原因の多くがこれにあたります。



- 対策 1 作業環境や作業手順の改善を行う。
⇒例えば、ミスを起こさないよう、作業環境を明るくする、危険物を色別したり、注意表示をして改善する。
- 対策 2 ミスを起こしても災害(事故)とならない工夫をする。
⇒例えば、クレーンの過巻防止装置や漏電ブレーカー《本質安全化》
- 対策 3 危険を事前に予測できる能力を身につける
⇒例えば、KY活動やリスクアセスメントがこれに当たります。

- ◆ しかし、これらの対策が十分に行われていても、
うっかりミスは、なくなりません。
しかし、**ゼロに近づけることは可能です。**

優れた対策も担当者や作業者等の関係者全員が参加しない場合は、簡単に忘れられてしまいます。必ず全員参加で対策を講じ、コミュニケーションをしっかりと取りながら、お互い注意しあえる一体化した作業所を築くことが、エラーをゼロに近づける為に最も大切な事です。《全員が当事者意識を持って危険有害要因の抽出やその防止対策を行う》

- 【一言】小さなエラーの連続は、大きな災害の引き金となり、会社の存続を脅かし多くの人の人生を狂わせます。だからこそ全員が協力し、エラーを見逃さない・発生させないように日々の努力を積み重ね安全作業に努めましょう。